

平成30年度第2回定例会

日 時： 平成30年11月2日（金）午後2時から午後4時10分まで

場 所： 本館 講座室

出席者： （図書館協議会委員）会長、委員3名

欠席者 委員3名

（事務局） 図書館長、図書館本館整備担当課長、企画運営担当主査、地域資料係長、子ども読書支援係長、サービス係長、総務係長、担当職員2名

会長 本日は委員3名から欠席の連絡が入っている。委員4名が出席のため、多摩市図書館協議会規則第4条により平成30年度多摩市図書館協議会第2回定例会を開催する。事務局より配布資料の確認をお願いする。

事務局、館長より配布資料の確認。

会長 議題の前に報告案件をお願いしたい。

本館整備担当 報告事項1、多摩市立図書館本館再整備基本計画について、資料2-1-1
課長 から資料2-1-2までを説明。

会長 何か質問等があればお願いしたい。

委員 プロポーザルに関して。これからの図書館は、時代が変わってもフレキシブルに対応できることが重要と意見として以前述べたが、審査の中でどのように評価するのか。

本館整備担当 企画提案の部分にフレキシビリティに関する提案依頼の項目がある。
課長 それに対する提案により評価することとしている。

企画運営担当 本日の配布資料では評価項目の概要の記載だが、公募資料の記載を正確に申し上げると「基本計画の施設計画では、使い方進化に対応できるフレキシビリティのある建築を目指すこととしている。将来の蔵書冊数や市民ニーズの変化に対応する室内空間の可変性や、ICTの高度化にも対応できるような基盤整備の必要性について具体的に記述すること。」
主査 として、提案を求め、評価していく。

会長 この夏に国際図書館連盟の大会があり、アメリカのウィスコンシン州の図書館の話があった。入口部分を改造して書架をなくし、パーティや結婚式もできる開放的な空間があるとのことだった。

委員が言われるように、図書館も長いスパンで見るとどういう空間が必要になるかはわからない。

アメリカ、マレーシア、シンガポールでは、スポーツジムと一体化した図書館もあるとのことだ。

本館整備担当 先日の図書館総合展のセミナーの中で、プロ野球球団のスタジアム移
課長 転の中で、移転先のスタジアムに図書館が入ることが話題になっ
ていた。

会長 後楽園の中にも図書室があるようだが、公共図書館なら面白い。
報告のあった基本計画の策定の際にも議論したが、館籍問題、開館
日・開館時間、地域館のあり方・活性化などは今後検討していかなけれ
ばならない事項で、図書館協議会でも確認していく必要がある。

本館整備担当 館籍問題については、内部でも検討している。全部を館に固定するの
課長 か、どういう本を選んで一部固定するのか、今後の各館の蔵書構成とあ
わせて検討を進めていく。

地域館に関しては、豊ヶ丘と東寺方の複合施設では、大規模改修に向
けて、地域住民が市の公共施設担当と今後のあり方を検討しており、図
書館もいずれ一緒に検討していく必要があると考えている。開館日・開
館時間の検討はこれから取り組んでいく。

会長 プロポーザルの参加表明は何件くらいあったか。

本館整備担当 現段階では、10件以上あったということだけ申し上げる。
課長

委員 プロポーザルの募集要項等のお知らせは、ホームページのみか。

本館整備担当 ホームページだけでなく、建築の業界紙にも情報提供したので、関係
課長 する記事やサイト等に掲載があったと考える。

館長 報告事項2、その他。口頭で説明。

秋色おはなし会を9月22日土曜日に永山フェスティバルにおいて開
催。お団子づくりと図書館おはなしの広場を9月24日月曜日に旧富澤
家で開催。パルテノン多摩歴史ミュージアム&多摩市立図書館連携講演
会「調布玉川惣畫圖を探る」を9月29日土曜日に多摩市立図書館で開
催。

会長 旧富澤家のイベントはいつ頃始まったのか。

館長 旧富澤家でのイベントは今年で4回目である。

会長 3月ごろにやっていたイベントは何か。

子ども読書支 平成29年3月の時は、子ども読書まつりのエンディングで、おはな
援係長 し会を行った。

会長 調布玉川惣畫圖といった資料のデジタル化はどうなっているのか。

館長 デジタル化は具体的にはどのようにやるか決まっていないが、研究段
階である。

会長 ヨーロッパなどでは、古い貴重なものをデジタル化して1箇所で見
索できるようにしている。資料がデジタル化されれば有効活用されるの
ではないか。

- 本館整備担当 課長 インターネットなどで広く公開しているわけではないが、テレビなどの放送で活用する場合に提供できるように、狭い意味でのデジタル化したデータはある。
- 会長 報告事項2は以上。次に報告事項3について委員より説明をお願いします。
- 委員 報告事項3、学びあい育ちあい推進審議会の報告について資料2-3を説明。
- 学びあい育ちあい推進審議会の協議事項、「平成31年度東京都市町村社会教育委員連絡協議会第3ブロック研修会に向けて」、「今後の社会教育についての協議の方向性」、「平成31年度公民館事業の方向性」、報告事項、「多摩市の教育連携支援事業の取組み」、「教育連携支援事業推進委員会への参加」、「第三次多摩市子どもの読書活動推進計画の報告」、「平成29年度多摩市の図書館(多摩市立図書館事業報告書)についての報告」について。
- 会長 学びあい育ちあい推進審議会の報告事項について、何か質問等があればお願いしたい。
- 館長 委員からの報告の補足であるが、10月18日定例会において、多摩市立図書館の事業報告である「平成29年度多摩市の図書館」を発行したことをお知らせした。この「多摩市の図書館」をもとにイベント・企画展示・昨年度の実績も踏まえ広く図書館の事業について説明を行った。
- 会長 報告案件は以上。ほかになれば議題に進む。議題1「平成30年度多摩市立図書館事業計画の評価について」事務局から説明をお願いします。
- 館長 議題1、平成30年度多摩市立図書館事業計画の評価について、資料2-2-1から資料2-2-3までを説明。
- 会長 平成30年度多摩市立図書館事業評価は、一つの案として出していた。館長から話があったが、今回は結論を出すわけではなく、今日は色々な意見、疑問点など出していただければ良い。
- 私からの質問として1つは、教育委員会の方で行っている評価と一致させなくて良いのか。
- 館長 教育委員会の方では、教育振興プランの評価の中に、取り組むべき項目があり、各課あげて自己評価を行い、教育委員会で報告している。図書館もいくつかの項目があるが、図書館の事業計画ほど詳細なものではない。
- 会長 教育委員会での評価は限定的なものになるということか。
- 館長 図書館からの学校支援や、学校での取組み。図書館として何を取り

組むかなど。いくつかの限定的なものである。

会長
館長

教育委員会の方では評価はどのようにしているのか。
教育委員会の方では、教育振興プランに基づき年度単位での取り組みに対して、各所管課が自己評価を行い、A・B・Cで評価する。その中から、教育長、教育委員が評価する事業を10事業選定し、分担して評価を行う。評価にあたり、必要に応じ、各所管課とのヒアリングを実施する。学識経験者にも評価をお願いしている。評価後、教育長、教育委員、学識経験者による意見交換を経て、「事務点検評価報告書」としてまとめ、教育委員会で決定している。評価した事業について2年後に再評価もある。

会長

私も他の自治体で関わっているが、今の話で、教育委員会はしっかりやっていると。自己評価に対して、その場で意見を述べる手法もあれば、自己評価の説明の次の定例会で意見を表明する手法や、協議会としてしっかり外部から確認するというやり方もある。

どこまでエネルギーをかけるか。なるべく負担を少なくするなら、その場で意見を聞いて出すという手法もある。

委員

教育委員会での評価は時間をかけて行っているが、図書館協議会はそのままで時間をかけられないのではないかと。少し簡素化してもいいのではないかと。

会長
委員
館長

今日の会議では自由に意見を言ってほしい。

事業の取組み状況は、かなり具体的に達成レベルが出てくるのか。

次回の図書館協議会では一つの事業で参考例を作成してご覧いただくように思っている。

委員

難しいことではあるが図書館運営に協力できるよう、評価に取り組んでいきたい。

会長

いざ評価しようとしたとき、量的な評価になっていないと評価しがたい。目標値が数値としてあって、達成がどの程度だったか作っていただけると良いのではないかと。

館長

平成30年度の計画を作るときに、評価することを踏まえて作るべきであったが、数値がしっかりと出せていない。計画自体も数値を設定した方がいいかもご意見をいただきたい。

委員

評価を行う意味が解りにくい。結局数値を作っていると良くやったとなるが、その目標で十分かどうかはなかなか断言できない。何を求められているか分かりづらい。何を答えたらいいのか。今年度が40点であれば来年度は60点になるよう頑張ってくださいとするのか。

館長

今まで図書館では、事業評価をしたことは無く、多摩市読書活動振興計画にある目標に基づき、具体的な取り組みを年間事業計画として上げ

ているが、そういう取り組みだけで良いのか。図書館協議会や市民の方から客観的に意見をいただきたいと思っている。

委員 図書館には、形にならない仕事も大切にしてもらいたい。評価はこの項目はクリアしたので良い、来年も頑張ってくださいとしか言えないが。ソフトの面について意見を言えばいいのか。

会長 市民の目で、活動状況をみて、素直に意見を出していいのではないかと。自己評価が一番大切であり、それを図書館協議会がモニタしているという枠組みが効けばいいのではないかと。事業評価を行い感想や批評を述べるところがあるのも自己評価を高めることになる。きっちり厳しくではなく、足りないところをサポートするという気持ちで評価を行ってはどうか。

委員 監視されて仕事をするのは好きではないので、図書館には自由にやってほしい。応援していきたい。

委員 図書館を運営する上では、事業評価を行うことが必要であるということか。

館長 図書館法には、図書館は当該図書館の運営の状況について評価を行うと定められ、多摩市読書活動振興計画においても事業評価を取り組み事項として設定しており、自己評価が大切であると考えている。いただいた評価をもとに今後の事業の方向性を示していきたい。

委員 評価という言葉には違和感があるが、一緒に取り組んで行きたい。

委員 自己評価は、一人の職員が行うのか。

館長 評価項目によって、役割分担されているので、携わった係の職員と係長が評価を行う。

委員 非常勤職員も評価に加わらせてはどうか。

館長 一つのご意見として参考にしたい。

会長 資料 2 - 2 - 2 平成 3 0 年度多摩市立図書館事業の評価について（案）のスケジュールでは評価結果の反映が平成 3 2 年度の事業計画になる。内部チームでの公開を伴わない検討も必要。年度の途中でも次年度の事業計画に反映できるような評価がよいのではないかと。次回に向けて考えを深めて行きたい。

会長 ほかに何もなければ本日はここまでとしたい。本日の予定はすべて終了。これで平成 3 0 年度多摩市図書館協議会第 2 回定例会を終了する。